

## 【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

### (18) 生活実態（終末期）

続き

高齢者の終末期を含む将来について、誰もがオープンに話し合える場所が必要ですし、自分に対して自身を多少でも持てることが大事ですし現実に必要です。

将来に対する不透明から寂しさ、不安、理解できない物事の多さが圧力をかけてくることなどが多くあると思います。

将来のことを自然体で話すことができる場所があつてこそ、いろんなことが考えられ選択肢も増えることとなりますので、大切な時間ですからこのことを強く要望することも必然ですし、避けては通れない事実です。

高齢者予備軍はこのことを考えることが必然ですし、そのことが多少なれど見えてくるものと思いますし、現在高齢者を抱えている家庭にあつては今が考える時期でもあります。どのような生活を行っているのか、心身の状態を確認し、その実態を把握することが大変重要であり不可欠です。

高齢者は、高齢化が進むなかにおいて多くは単なる長寿ではなく、最後まで質の高い人生を送り、有終の美を飾って人生を終えることを望んでいると思います。

高齢者は、社会参加と社会貢献を通して、豊かで質の高い生活を享受しうる社会を求めていると思います。

高齢者の願望を阻害する要因としては、高齢期に多発する疾患とともに、高齢期に生じる種々の心理的及び社会的問題があると思います。

高齢者の健康維持、高齢者を取り囲む福祉、心理、環境、社会システムに関する学問等が進み、その中で高齢者の身体的問題を主とした研究、教育、実践する医学などの重要性はますます増大し、多くの人が理解できるものが発表されることに期待をしていますし、その時期は急務だと感じます。

多くの人が考えられるものがあり、いろんなケースが紹介され、いろんな生き方を描かれることを望みますし、将来の不安は誰もが、大小はあつても誰でも楽しく今、明日を生活したいことは事実ですし、死に対する恐怖は誰もが持っていることだと思います。それを忘れることができれば多少のストレスが緩和されると思います。そこには生きる喜び、生きる義務、生きる権利があります。